

---

## 用語集

### 【英数字】

#### ● D I D（人口集中地区）

市街地の実態を把握するために、人口の集積度を指標として設定された地区。国勢調査では、市町村内の境界内で人口密度の高い調査区（40人/ha以上）が互いに隣接して、その人口が5,000人を超える地域をいう。

#### ● E V

EVとは、Electric Vehicleの略で、電気自動車のこと。ガソリン自動車はガソリンをエンジンで燃焼させ、車を駆動させるのに対して、電気自動車は電動モーターで車を駆動させる。

#### ● E V・P H Vタウン構想

経済産業省において、EV・PHVの普及に先駆的に取り組む都府県を「EV・PHVタウン」として選定し、各タウンでの集中的な普及推進取組の結果から普及モデルの確立を図り、日本全国への展開を目指すこととしている。平成21年3月に第一期EV・PHVタウンとして8都府県が選定された後に、平成22年12月に10府県が追加選定され、現在では合計で18都府県がEV・PHVタウンとして活動している。

沖縄県では、第二期に選定されており、H23年度の取り組みとしては、レンタカー事業者と協働して「低公害車カーシェアリング推進事業」を実施（本事業では、電気自動車等のレンタカーを観光利用が少ない夕方～翌朝にかけて県民の通勤手段として貸し出し、さらにレンタカー店舗を利用したパーク&モノレールライドを促進）している。

#### ● H 2 2 道路交通センサスによる昼間12時間旅行速度

交通調査基本区間を通過する自動車類の昼間12時間の平均旅行速度のこと。旅行速度とは（移動）に要した時間で、信号待ちや交通渋滞による停止を含む。

■ 昼間12時間平均旅行速度＝昼間12時間走行台キロ／昼間12時間走行台時

昼間12時間走行台キロは7時から19時までの時間帯別交通量に区間延長を乗じたものの総和である。昼間12時間走行台時は7時から19時までの時間帯別交通量に時間帯別所要時間（区間延長／混雑時旅行速度または区間延長／昼間非混雑時旅行速度）を乗じたものの総和である。

出典）平成22年度 全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）一般交通量調査

#### ● P H V

PHVとは、Plug-in Hybrid Vehicleの略で、プラグインハイブリッド自動車のこと。外部電源から充電できるタイプのハイブリッド自動車で、走行時にCO<sub>2</sub>や排気ガスを出さない電気自動車のメリットとガソリンエンジンとモーターの併用で遠距離走行ができるハイブリッド自動車の長所を併せ持っている。

---

## 【あ行】

### ● アクセス機能

交通の機能として、トラフィック機能（人、車の通行サービス）とアクセス機能（沿道の土地建物、施設への出入りサービス）に分けられる。両者はトレードオフの関係にあり、規格の高い道路ではトラフィック機能（走行速度、走行快適性）が重視され、逆に居住地内の道路等では速度よりアクセス機能が重視される。

### ● 新たな公共交通システム

本計画においては、中南部都市圏を対象とした基幹バス等の計画だけでなく、沖縄本島における広域的な骨格を形成する公共交通として鉄軌道系の計画が検討されている。

「基幹バス等」とは、道路上にバスレーンを設置し、バス車両の優先走行空間を確保する基幹バスのほか、専用走行空間を確保する BRT などがある。

「鉄軌道」とは、鉄道と軌道の両方を指し、鉄道は原則として道路に敷設しない電車の専用走行空間、軌道は一般的に道路に立体的に敷設されるモノレールや平面的に敷設される LRT などがある。

### ● エコドライブ

自動車などを利用する際に、運転技術などにより誰でも実行できる手段で燃費を向上させようとする取り組みのこと。

## 【か行】

### ● カーシェアリング

一般的に、登録を行った会員間で特定の自動車を共同使用するサービスのこと。業務用や個人利用、その両方を対象とするものなどがあり、様々な形態のシェア（共有）するシステムがある。カーシェアリングには、自動車走行距離の削減や、利用者1人あたりの CO2 削減効果が大きいなどの利点があり、環境負荷の削減に寄与する効果がある。

### ● 環境負荷

人が環境に与える負担のことであり、例えば、CO2 の増加による温暖化現象や大気汚染などがある。単独では環境への悪影響を及ぼさないが、集積することで悪影響を及ぼすものも含む。環境基本法（平 5 法 91）では、環境への負荷を「人の活動により、環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるものをいう。」としている。

### ● 環状型

宜野湾市では普天間飛行場が市の中央に位置していることから、これを取り囲む輪のような円い形のことをいう。

---

- **既存ストック**

ストックとは、「在庫品、手持ちの品」などを指し、本計画における「既存ストック」とは既に整備済みの都市施設（道路）や、市街地内の未利用地、使用されていない工場や倉庫等の空間や施設などのこと。

- **交通環境**

ここでは、都市の交通に関する全体の状況のことをいう。公共交通や道路・街路の状況、ライフスタイルの変化による交通行動などがある。

- **交通体系**

人やモノの移動に必要となる交通の手段・方法として整備された体系のこと。

- **交通容量**

任意の道路（区間）において、一定の時間内にどれだけの自動車を通すことができるかという道路の最も基本的な機能上の能力のことをいう。それに対して「交通量」とは、ただ単に道路を通過する車の数量のことをいう。

- **交通流動**

一人ひとりが徒歩や車などの交通手段を用いて、あらゆる目的・種類による移動の流れのこと。

- **コミュニティサイクル**

レンタサイクルの形態のひとつで、街の一定範囲内で、至るところに設置してある自転車を好きな場所で借りたり、返却することができるシステムのこと。なお、レンタサイクルについては、旅行者や地域住民に自転車を貸し出すサービスであり、観光客をターゲットとするケース、放置自転車を減らすことを目的にしたケース、観光客を呼び込むために設置するケースなどさまざまであり、料金体系も時間単位、日単位がある。近年レンタサイクルの一形態として、自転車シェアリングというサービスが一部の都市で導入されており、都市の一定範囲内に無人の自転車置場をいくつも設置して、どこで借りて、どこで返しても良いというシステムになっている。

- **コミュニティ道路**

コミュニティ道路とは、自動車の通行を主たる目的とはしない道路のこと。歩行者の安全性や快適性を考慮した道づくりを目的としており、類義の道路としては歩車共存道路がある。

なお、道路上の空間は歩行者、自転車、低速の自動車などの交通のほか、近隣住民の交流や子供の遊びなどに用いられる。歩行者専用道路とは異なり、自動車の通行が完全に禁止されるわけではなく、自動車交通を抑制する交通静穏化のひとつである。

- **コミュニティバス**

「コミュニティバス」とは、法的に明確に定義されている概念ではない。法的には、普通の路線バス（乗合バス）と同様、道路運送法などの規定に従うものであり、高齢者や身体障害者等が公共施設・医療機関に行きやすくするなど、地域住民の交通の利便性向上を目的と

---

して、地方公共団体が何らかの形で運行に関与している乗合バスを一般にコミュニティバスと呼んでいる。

本市では、「宜野湾市生活交通ネットワーク計画（地域内フィーダー系統）」に基づき、環状型の都市構造に対応し、路線バスの空白地域の解消に対応するコミュニティバスが位置づけられている。

## 【さ行】

### ● サイクルポート

自転車の駐輪設備あるいは駐輪のための施設のこと。

### ● シニアカー

高齢者向けに作られた、三輪または四輪の一人乗り電動車両（バッテリーカー）。日本の道路交通法では車両ではなく歩行者扱いとなるため、車道ではなく歩道を通行する。

### ● 斜行移動支援システム

高低差の大きい区間の移動を支援するエレベーターやエスカレーターなどのこと。

### ● ゾーン規制

生活道路における安全対策として、車両の通行に関する規制（速度規制など）や自転車専用通行帯、自転車歩行者道などを面的に設置・規制している地区のこと。

## 【た行】

### ● 多様な運行形態

生活を支援する公共交通として、鉄道やバスのほかに、10人以下の人数を運ぶ自動車を利用した乗合自動車のことを乗合タクシー、利用者の要求に対応して運行する形態のデマンド型交通（DRT：Demand Responsive Transport）などがある。

### ● 通過交通

交通調査や交通需要予測において、設定される対象地域内に出発地及び到着地のいずれをももたず、単に通過するだけのトリップのこと。日常的には、当該地区を単に通過するだけの自動車交通に対してよく使われる。

### ● 低炭素まちづくり

二酸化炭素の排出が少ないまちづくりのこと。環境行政のみならず都市行政も一緒に市民や事業者とともに進むことが必要であり、都市行政においては、都市計画・建築・交通・みどりなど幅広い分野での取り組みがある。

### ● 道路率

土地全体に占める道路の面積の割合のこと。那覇広域都市計画基礎調査（平成18年）における土地利用現況のデータをもとに算出している。

---

- **都市計画道路改良率**

改良済道路の延長の都市計画決定された道路延長に対する比率のこと。改良済道路は、道路用地が計画幅員のとおりに確保されており、一般の通行の用に供している道路のことをいう。

なお、改良済以外の区間のうち、路線として都市計画道路と同程度の機能を果たしうる現道（概ね計画幅員の2/3以上又は4車線以上の幅員を要する道路）を有する区間を概成済としている。

- **トラフィック機能**

交通の機能として、トラフィック機能（人、車の通行サービス）とアクセス機能（沿道の土地建物、施設への出入りサービス）に分けられる。両者はトレードオフの関係にあり、規格の高い道路ではトラフィック機能（走行速度、走行快適性）が重視され、逆に居住地内の道路等では速度よりアクセス機能が重視される。

- **トリップ**

人がある目的をもって、ある地点からある地点へと移動する単位をトリップといい、1回の移動でいくつかの交通手段を乗り換えても1トリップと数える。

## 【な行】

- **ノーマイカーデー**

一定の月日・曜日・または期間を「ノーカーデー」または「ノーマイカーデー」と定め、自家用車の利用自粛と公共交通機関の利用を呼びかけること。

## 【は行】

- **パークアンドライド（P&R）**

都心部の道路混雑を緩和するため、自動車を都市郊外の駐車場に止めて鉄道等の公共交通機関に乗り換え、都心部にあるいは特定地域に入る形態のこと。

- **パーソントリップ調査**

パーソントリップ調査（パーソン=人、トリップ=動き）とは「どのような人が」「いつ」「どこから」「どこへ」「どのような目的で」「どのような交通手段を利用して」動いたのかについて調査し、人の一日の全ての動きをとらえるもの。調査結果は、基礎的なデータとして交通計画を検討するために活用されることが多い。

- **ハイブリッドカー**

動力が燃料燃焼と電気によるモーターを併せ持ったハイブリッドエンジンを搭載した自動車。

- **バスロケーションシステム**

無線通信やGPS（全地球測位システム）などを利用してバスの位置情報を収集すること

---

---

により、バスの定時運行の調整等に役立てるほか、停留所においては近接情報を提供するシステムのこと。

- **バリアフリー**

高齢者や障害者等が社会生活をしていく上での物理的、社会的、制度的、心理的及び情報面の障壁を除去する考え方。都市交通におけるバリアフリー化とは、道路の段差解消をはじめ、音声や点字などによる情報提供などによって、高齢者や障がい者等が円滑に利用できるようにすること。

- **ヒヤリハットマップ**

運転中や走行中に事故が起きそうな状況に出会いヒヤリとしたり、ハッとしたことを記録・図化し、その原因を考え、再び事故の要因とならないようにする安全活動に取り組むこと。

- **フィーダー**

フィーダー（feeder）とは、河川の支流という語源からきた交通機関の支線のこと。ここではモノレール駅からのバス等による端末交通のことをいう。

- **分担率**

全体のトリップに対するある交通手段利用を利用したトリップの割合をその交通手段利用の分担率という。

- **ボトルネック**

道路において交通流動の妨げとなっている箇所のこと。具体的には、赤信号時間が相対的に長い交差点や、車線減少・幅員減少により渋滞を起こす箇所のことをいう。

## 【ま行】

- **モビリティ・マネジメント（MM：Mobility Management）**

多様な交通施策を活用し、個人や組織・地域のモビリティ（移動状況）が社会にも個人にも望ましい方向へ自発的に変化することを促す取り組みのこと。

- **モニタリング**

予め設定しておいた計画や目標、指示について、その進捗状況を随時チェックすること。

## 【や行】

- **ユニバーサル**

高齢者や障害者等はもちろんのこと、身体的状況、国籍、言語、知識、経験などの違いに関係なく、公共交通を利用する人の誰もがスムーズに使うことができる環境などを目指す概念のこと。

---

## 【ら行】

- **ラダー型（はしご状）**

ラダー（ladder）は梯子（はしご）、または梯子の形に似たもののことであり、宜野湾市では西海岸道路や国道 58 号、国道 330 号、沖縄自動車道を南北方向の骨格として、それらを梯子の形で連絡することをいう。

